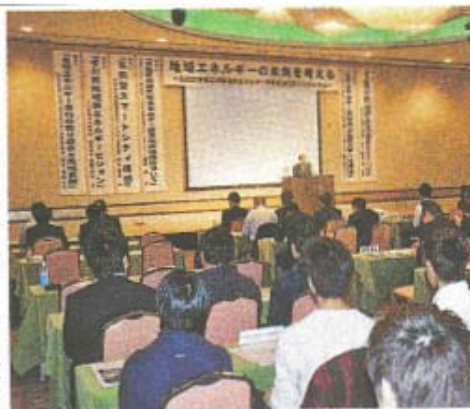


自然エネの現状に理解

弘大 学科開設記念でシンポ

弘前大学理工学部自然エネルギー学科開設記念シンポジウム「地域エネルギーの未来を考える」が28日、アイトホテル弘前シティで開かれ、出席者が本県のエネルギー事情について理解を深めた。主催は弘前大学理工学研究科で青森CO2推進機構の共催。同大は北日本新エネルギー研究センター(後に研究所に昇格)、理工学研究科博士前期課程への新エネルギー創造工学コースの設置を経て、今年度、理工学部自然エネルギー学科を設置した。

会場では佐藤敬学長は「本県の未利用再生可能エネルギー資源のポテンシャルは高く、その利用促進は有力な地域活性化策になる。利用推進に当たる人材育成が弘前大学の教育目標においても重要な位置を占める」と述べ、地域の協力を得て成果を挙げたいとした。基調講演では、日本エネルギー学会会長の山地憲治さんが「自然エネルギーの現状と弘前大学への期待」と題して再生可能エネルギー



県内のエネルギー関連事業について情報共有したシンポジウム

の現状や政策動向を解説。弘前大学の自然エネルギー学科について「エネルギーは総合工学であり、経済との連携も重要。学際研究への挑戦をぜひお願いしたい」と期待を寄せた。また「ベースになるのは人材育成。研究と教育が大学の両輪であり、具体的実践を通じた総合力を持つ学生を育てて」と述べた。

このほか、弘前大学が人材育成・定着事業の紹介、県、弘前市、平川市がそれぞれエネルギーに関する取り組みなどを報告し、出席者が情報共有した。(今井珠世)

※この画像は当該ページに限って陸奥新報社が利用を許諾したものです。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp